

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

風景づくりの調整役

私はランドスケープに関するコンサルタント業務に約30年携わってきました。ランドスケープの仕事は、与えられた敷地が持つ多様な自然環境や社会的背景を理解し、土木・建築・動植物・観光・文化・教育など、様々な専門分野の方々に協力して頂き、一つの風景としてまとめ上げるもの。“風景づくりの調整役”とでも言いましょうか。

毎回、新たな景観と向き合うランドスケープの世界では、その業務に関わるメンバー全員が目指す景観や将来像を共有するため、いかに意志疎通を図るかが重要となってきます。そこで、私が心掛けているのがお願いする際の「やってみましょう」と、そして感謝の意を込めて「おかげ様で方向性がみえてきました」といった言葉を掛け続ける。つまり、やりながら共に考えるということです。50歳を超えた技術者が、こんな子供の挨拶のような言葉を紹介していること自体、少々気恥ずかしい気もしますが、調整役として欠かせないワードであることは間違いありません。

私は若かりし頃、ランドスケープアーキテクトとして奇を衒った“自分の作品”を創りたいと、独りよがり公園緑地を設計していた時期もありました。しかし、年数が経ち、出来上がった公園緑地の風景を眺めてみると、樹木や草花、道路、水辺、建物など、その全てにおいて様々な専門分野の方の協力なしでは実現できない“協同の作品”であることに気付かされました。以来、お願いと感謝を繰り返しながら、今も風景づくりの仕事を続けています。

佐藤 俊義 (さとう としよし)

●建設部門(都市及び地方計画)

勤務先

北海道造園設計株式会社



→次号は、星野 洋さん(建設部門)

私には2歳上の姉がいます。姉は美容師をしています。カットやパーマだけではなく、メイクや装飾、洋服・和服の着付けなど、トータルコーディネートが出来ることから、「ヘアメイク・アーティスト」と呼ばれているそうです。

姉は以前、海外のデザイナーが日本で開催したスタッフ選抜で選ばれ、ロンドンやパリ・ミラノなど、世界4大コレクションのバックステージを経験したことがあります。この実績から企業や芸能人、セレブな方々のヘアメイクを個人で請け負い、

東京で20年以上やっていましたが、今年からJRタワー・22階の美容室で勤務することになりました。

今年、一番上の娘が二十歳の記念写真を撮ることになって、姉に自宅まで来てもらった時のことです。私が娘に「美容師さんに来てもらって、着付けしてもらうなんて、お金持ちの奥様みたいだなあ」と言った時、姉がお金持ちの奥様をまねて「ここに座ればよろしいのね!」「今日はどの様にするのかしら?」とおどけて見せました。その時は「お金持ちは、お任せなんだ」ということだけでしたが、後になって考えてみると、毎回違うヘアメイクをしているということに気付きました。おそらく、どこへ出かけ、どの様な服装をするのか等、会話の中から聞き出し、その状況に見合った新しいヘアメイクをその人に満足してもらう様に提供するのでしょうか。職種は違いますが、常に「どの様にするのか?」と問われ、その状況に見合った適切な調査や対策等を提示する私のコンサルタント業務に通じる所があります。

お客さんに「どの様にしますか?」と聞き返した時点で、もう次の指名は無いという自営業の厳しさを、サラリーマンではありますが、14年目の技術士として見習っていきたくと思っています。

佐藤 良次 (さとう りょうじ)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社ケイジー技研
調査部



→次号は、大山朝之さん(応用理学部門)